



早島町 地元有志が碑前祭 津山では墓前祭も

碑前祭に参加した早島の方々。事前に碑の回りの清掃もしてくれました。(2/14)

第10回総会の2月14日の午前中は、朝日健二さんも参加して早島町にある「人間裁判の碑」の前で碑前祭がおこなわれました。碑前祭は早島町の地元有志によって毎年開かれています。今年は朝日さんも含めて11人が参加しました。その中には93歳で朝日訴訟の当時、療養所の職員であった岩崎琢己さんも参加して「朝日さんはいつも療養所のなかで笑っていたのが懐かしい」と朝日さんの思い出を語ってくれました。参加者全員が社会保障が切り捨てられていく厳しい情勢だが、朝日茂さんのように最後まで奮闘しよう、と誓い合いました。また、同日、津山市では本行寺の住職からお経をあげてもらい、墓前祭が営まれました。

人間らしく生きたい！人間裁判
生活保護受給者
生活保護は国民の権利

4/15 18:30~20:30
岡山市勤労者福祉センター
(岡山市北区春日町1-6)
(TEL: 086-255-8061)

井上 英夫先生
生存権裁判全国連絡会 会長
「人間らしく生きたい！人間裁判」をささえる岡山の会(株)

「人間らしく生きたい！人間裁判」裁判 4/15 「ささえる会」を結成

ささえる会結成総会への参加を呼び掛けるチラシ(左)。右の写真は岡山地裁への提訴行動(14年10月30日の提訴行動)



一昨年の8月から生活保護基準が大幅に切り下げられたことから、このままでは生きていけない、と昨年10月30日、「人間らしく生きたい！人間裁判」が岡山地裁に提訴されました。原告は50人で同様な裁判では全国で11番目となります。

厚労省の発表では、昨年末時点で生活保護受給世帯数は過去最高の161万8千世帯になったと報道されていますが、こうした受給者に対する世間の目は厳しいものがあります。

今回の裁判は、こうした生活保護受給者に向けられる偏見・スティグマを払しょくし、生活保護は憲法で保障された権利であることを明らかにし、だれもが必要な時に胸を張って受けることができるような社会の実現をめざしてたたかわれるものです。

しかし、こうした意義ある裁判も原告団や弁護団による裁判闘争だけでは勝利できません。国民の意識を変え、世論を巻き起こしてこそ勝利できます。そのた

めに裁判の意義や生活保護に対する偏見を取り除くためにも支援する組織が必要です。そこで、4月15日に「岡山ささえる会」を結成することになりました。結成総会には、生存権裁判全国連絡会会長の井上英夫先生を招いて記念講演をしてもらうほか、原告団や弁護団からの訴えなども予定しています。

【「人間らしく生きたい！人間裁判」をささえる
岡山の会結成総会】

- * 4月15日(水)18:30~20:30
- * 岡山市勤労者福祉センター

特定非営利活動法人朝日訴訟の会

〒700-0054 岡山市北区下伊福西町1-53

(TEL 086-255-1299 FAX 086-255-8060)

E-mail: info@asahisoshou.or.jp